

向上を目標に」

6月号「国をあげての開発 総裁加納久朗」（イヌラエル訪問記）

7月号「総裁を囲んで、公団当面の問題点を語る」

9月号「スラム街を視察して」（国内のスラム街訪問記）

12月号「アジアと日本の立場」

34年1月号「年頭挨拶、今年も明るく健康で、総裁加納久朗」

同「新春すまい談義」

6月号「退任の挨拶、友情と信頼に感謝、前総裁加納久朗」

7月号「座談会、住宅公団の回顧と展望、満4周年を迎えて」

住宅公団の歌「ならんだ、ならんだ、明るい窓が」（サトー・ハチロー作詞、古関祐而作曲）を毎朝業務が始まる前に斉唱した。

一、ならんだ　ならんだ　ならんだ窓が
窓、窓、窓、窓、明るい窓が
どこの窓にも　幸せ満ちて
眺める彼方の　朝の虹

みんなの　みんなの　みんなの家だ
われらの　われらの　住宅公団

二、きこえる　きこえる　きこえる声が
声、声、声、声、はずんだ声が
西に　東に　南に　北に
ひろがる希望に　燃える歌

みんなの　みんなの家だ
われらの　住宅公団（以下略）

久朗らしいユーモラスなエピソードを『日本住宅公団史』の「コラム」から引用する。

〔総裁が団地第1号赤ちゃんの名付け親に〕

昭和31年12月、埼玉県大宮市にある西本郷団地の岩倉健一さん（28歳）夫妻から、総裁あてに次の手紙が届いた。（現代語表記とする）。

『前略、公私多忙の秋、然も不眠なる突然のお願いを平に御許し下さい。

私共は去月、大宮の公団住宅に入居の幸運を得た結婚1年半の夫婦であります、本日午後



というものは被災大都市の地方的な要求よりは遙かに大きく広い問題であるという事実であります。私はこの問題は国民的な且重大な社会問題であり、政府としては多くの家のない人々や徹底的に質の低下しつつある標準以下の家に住んでいる人々に「すみか」を提供するために、あらゆる努力を傾

倒すべきであると思います。東京や大阪の例の様に日本の年への人口集中によつて起つた諸問題は丁度自動車交通によつて起きた問題の様に殆んど解決出来ない様であります。（中略）。

もし、出来るならば、今後都市の人口の流入は一切許さない事にすべきだと考えます。戦災都市における住宅建設は、戦前に住みついていた人々の住宅建設に限られるべきであります。

従つて、私は問題をはっきりした2項目に分けたいと思います。

第一は、一般都市の住宅問題。

第二は、郊外に於ける住宅問題及び団地の達成と新しいコミュニティを作ることによつて絶えず増加する人口を処理するという問題であります。

一、一般都市の住宅建設

先ず、我々が直面している都市に於ける問題から片付けよう。で、例として東京の場合を考えましょう。東京の大都会は信じられないほどの過密と標準以下のバラックで成り

5時15分、住宅内いの一室に800匁の女子を出産いたしました。重なる幸福をより記念し、私共一家の励みとすべく、大家である総裁殿に是非共名付け親になつて戴きたく、御無礼をもちえりみずお願い致しますのであります。

何卒私共の願いを聞き届けられます様、私共も恥ずかしい良い子に育てますから、重ねてお願い致します。

敬具

昭和31年12月13日　新親馬鹿　岩倉健一　同　福子

加納総裁殿　（原文のまま）

加納総裁は『こんな縁起のいいめでたいことはない』と、これまた大喜び。公団の頭文字をとつて『公子』と命名。ポケットマネーの金一封を添えて、赤ちゃんの誕生とその前途を祝福した。岩倉夫妻は大感激。『よい名前をつけていただいて、こんな幸せなことはありません。立派に育てます』とのお礼の手紙が届いている」

《建築家レイモンドとの交流》

久朗は在日中のチェコ系アメリカ人で著名な建築家アントニン・レイモンド（Antonin Raymond）を大切なアドバイザーとして意見を求めた。

レイモンドの加納宛書簡は、総裁就任直後の加納に大きな刺激を与えた。『いえなみ』（日本住宅公団発行・月刊誌、昭和30年10月号）から引用する。加納はレイモンド氏の手紙の前置きの言葉》を書く。

「7月25日、日本住宅公団は発足しました。それから4日目、即ち7月29日に、私は自宅に私の友人である技術家、建築屋さんを招待して、協力を頼みました。レイモンド氏もその中に加えました。

この手紙はその時に集まつた有力者と彼が直接話をして強い印象を受け、日本の住宅問

立っています。東京人がこんな環境の中に於ても比較的みつとも悪くない生活をしていることは偉いと思います。しかし、それは生やさしいことではありませんし、肉体的にも道義的にももう之以下に下げられない限界に來ていると言えましょう。

政府補助による個人住宅も因襲的な日本方式で建てられプランもまずく、且、不経済で、居住者が長期に亘つて支払わなければならない金に對して、全く価値に乏しいものであります。年賦金を払い終わつた時分には居住は価値のないものになるでしょう。然らばコンクリートのアパートは如何にというに、これも又プランがまずく日本のな生活にも適当な便宜さがなく、と言つて洋式生活にも適当な便宜さがありません。それらは、とにかくにも、ある種の「すみか」を供給するとは言えるでしょうが、確かにここに住む生活は標準を代表していて、その割には極めて高くついています。もつと満足なプランや、もつと経済的な材料や、もつと適当な構造、というものが創作力と決断力のある人々によつて発見され得ることは疑いない事に思われます。

一般的な指導意見の一例としては、広く惨めなバラックに散らばつてゐる人々を、公園と児童遊園地にとりかこまれたりした、ぜいたくではないが、要領を得ている、真に効率の良い方法で高層のアパートに住ませる田園都市が考えられます。（中略）。住宅建設に責任あるグループは都市計画と手を携えて仕事をしなければなりません。私は現在の都市計画というものが此の種の考えを計算に入れていないということを確信させられています。

二、郊外のコミュニティについて

日本に於ける土地開発については数個の可能性があります。代表的なものは千葉県の例で、ここでは大きな新しいコミュニティが

題に就いて彼も意見を書きたくなつた。それで、よこしたものである。

レイモンド氏は私の古い友人であります。35年間、日本に居住し各地に足跡を印し日本の芸術に對して、愛と深い理解をもつております。私共、日本人は、彼より日本の芸術に就いて学びます。彼は伊勢神宮の建築様式を世界的傑作として世に紹介しました。彼の設計したブロック建理想的農家が先達で、大分県に出来ました。

彼は年数回世界各地を訪れます。先夜私は彼の撮影して來たメキシコの新都市と大学建築のスライドを見ました。彼の作はオリジナルであります。彼の日本工芸界、建築界に貢献したことは大きいものです。この短い手紙の中にも真に日本を愛する数多くのサゼッシヨンを含んでいます。

加納久朗

親愛なる加納様（注…加納和訳）

貴邸に於ける住宅建設に係のある人々のパーティに御招待を戴き大変光栄に存じました。御目にかかった人々は、ほんとうに優れた方々でした。私はその節御約束しましたように住宅問題についての2、3の考え方を含めたノートをお送り致します。

此のノートに含まれた問題なり或は他の問題でも何時でも御一緒に議論出来れば大変嬉しく思います。

アントニン・レイモンド

『日本に於ける公共住宅供給の組織的な努力について』

多少不確定ではありますが、私の得た情報によりますれば、日本全般の公共住宅建設の計画として、日本政府は住宅問題の緊迫性を緩和するために戦争の間に爆撃で破壊された都市から始める様決心したと受けとれます。

此の事から私は直ちに次の様な事実を考えさせられました。即ち、日本全般の住宅問題

造られる十分な土地が開発可能であります。土地の開発は農業に土を、工業には都市を供給出來ます。もし適当に計画されればその様なコミュニティは住む人々に理想的条件を提供できるでしょう。莫大な時間が勤労者の職場への通勤に浪費されています。工業都市と言うものは、工業に係ある全ての人々が工場に接近して住める様に計画すべきです。住宅や工場は日本に於けるあの建物の一般的なきたなさの代わりに、きれいな環境に整備され工場自身も美しくされるべきです。（中略）。

研究のために金を惜しむべきではありません。研究のための事務所や試験室は氣宇壮大であるべきで、研究の仕事に働く人々の報酬は国内の最も才能ある人を引き付けるに足るものでなくてはなりません。

現在の建築の方法や材料は不十分で且不適当であり、新しい方法や材料が見出されねばなりません。

私は日本の都市計画や設計や施工の若い人々の創造能力に信頼ももっております。彼等が真の支持と機会とを与えられるなれば、比較的短時間に驚く程いい結果に到達するでしょう。もし之とは反對に問題が老年の大学教授や古い固定した建設関係者や業者関係や、或は同じ様な組織の人々に握られるならば結果は失望すべきものでありましょう、これ等の連中ではなされる時は成功がおぼつかないことは既に実証済でありますから。

アントニン・レイモンド

（参考文献…「千葉県一宮町教育委員会加納家資料」、「百万戸への道」（非売品）、「総裁日誌」（加納久朗）、「百の証言」、「日本住宅公団史」、「奇跡の団地 阿佐ヶ谷住宅」など）。

（つづく）。